

本物を追求した 色へのこだわり

生徒たちに本物の色を届けたい——光村図書編集部は、実物の作品を見て色の確認をしています。



むりょうじにある「とら ずふま」の再製画の前に座る編集長。実際に襖の前に座ってみると、虎の目線と正座したときの人間の目線が同じになるよう描かれていることがわかる。色校正は、無量寺の許可を得て、収蔵庫に保管されている実物を見ながら行った。

編集部が実物を見に行き、色校正を行いました

色を確認し、イメージ通りの色になるよう印刷所に指示することを「色校正」と言います。光村図書の編集部は、生徒たちに「本物の色を届ける」ため、作品の実物を見て色校正をすることを、とても大事にしています。

例えば、長沢芦雪の「虎図襖」。編集部はこの作品が所蔵されている本州最南端の町・和歌山県串本町の無量寺まで足を運びました。墨一色で描かれた作品ですが、芦雪のダイナミックな筆使いが伝わるよう、墨の濃淡などをじっくり観察し、実物を見ながら丁寧に色校正を行いました。



本物の迫力が伝わってくるね！



2・3年表紙



「最後の晩餐」が描かれている、ミラノのサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の内部の様子。

「最後の晩餐」を見るためミラノへ

編集部は長期休暇を利用し、時には海外にも足を運びました。「最後の晩餐」を見るためにイタリア・ミラノへ。また、フェルメールの「地理学者」を見るためにドイツ・フランクフルトへ。教科書の該当ページを持参し、海外の美術館で実物とにらめっこし、色校正を行いました。国内外問わず「教科書に掲載する作品は、実物を見て色を確認する」ということを、大事にしています。



光村図書

内容解説資料

この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

発行者：小泉 茂 発行所：光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111(代表) 光村図書ウェブサイト：www.mitsumura-tosho.co.jp